

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.19 平成26年12月1日発行
発行責任者：高一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org

メールは
こちら



特集
718

子どもたちの暮らしは どうなっているのか 「民間賃金」という指標で読み解く

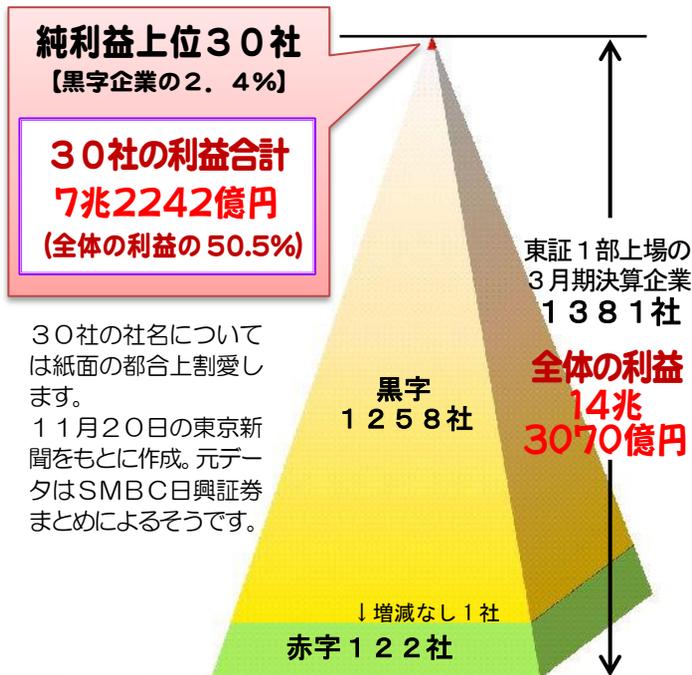
「学校の先生」という職業の私たちは、公務員ということや、目の前でお金が動かない職業ということもあり、民間賃金や正規・非正規雇用などという経済分野の話が遠くのことに聞こえがちになってしまつたものです。
しかし、子どもたちのへらへらという点では、決して遠い話で

広がる格差

それは大企業と中小企業...

日本の大企業の中でも利益の格差は広がっているといふのです。日本のトップ企業と言われる東証一部上場企業は約一四〇〇社あります。その全体の利益の半分を、わずか三〇社が占めているといふのです。

十一月二〇日の東京新聞が報じているところによると、今年度上半期の東証一部上場企業の純利益の合計は十四兆三千七十億円。この金額自体が過去最高で、二〇一二年度上半期の二・二倍になっているとのこと。上位三千社の純利益は七兆二千二百四十二億円で全体の利益の五〇・五%を占めています。格差というと、大企業と中小企



30社の社名については紙面の都合上割愛します。11月20日の東京新聞をもとに作成。元データはSMBC日興証券まとめによるそうです。

業というイメージがありますが、大企業の中でも業種や円安の恩恵の有無で業績の格差が広がっているようです。つまり、中小企業だけでなく、ほとんどの大企業も苦しめて、ほんのわずかの大企業だけがものすごい利益を生んでいるというのが現状なのです。

はありませぬ。雇用の在り方や民間賃金の安定は、子どもたちの暮らし、家族の在り方にも大きく影響します。よく、組合では「新自由主義」とか、「競争と格差」という言葉を使います。今回の「シリーズ718」では、子どもたちの暮らしの根幹となる「家族のくらし」。特に民間賃金について考えます。

生活がどんどん苦しくなる...

こうして見えてくるのは、現在の日本は超有名なトップ企業が利益を上げ、その他の大企業はもちろん、多くの勤労者は利益・収入が増えず、その結果として家計が苦しくなっている現実です。

下の表は総務省がまとめている「家計調査報告」の中の『勤労者世帯の収入の推移』です。年々実収入も消費支出も減少していることが一目瞭然です。

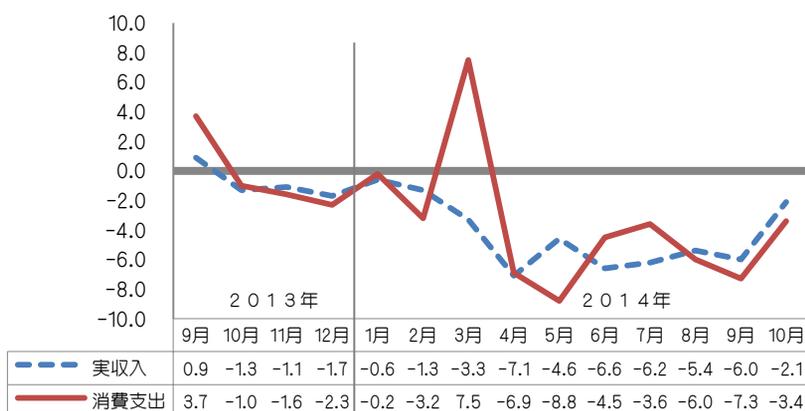
私たちが日ごろから接している子どもたちの家庭でも、共働きや非正規雇用などによって、「一生懸命働いているけど、生活が豊かにならない」という苦悩があるのかもしれない。格差社会という言葉が生まれてかなり時間が経ちます。その結果、子どもたちが安心して家庭や学校でのびのびと遊んだり学べないという現状があるのだとしたら大きな問題です。

未来を生きる子どもたちのために

「今の時代の暮らしをどうするか」ということは、子どもたちの未来にも関わってきます。集団的自衛権が話題になったところ、「教え子を再び戦争に送らない」という組合旗の言葉の意味を考え合いました。二

回にわたり経済を中心に考えましたが、このほかにも様々な変化があります。この二年間を振り返ることは、私たち大人の暮らしはもちろん、未来を生きる子どもたちのために大切なことです。

実収入・消費支出の対前年同月実質増減率の推移 (%)



総務省統計局「家計調査報告」より「勤労者世帯の収入の推移」の表とグラフをもとに作成。2人以上の世帯のうち勤労者世帯の数値をグラフ化。



枝幸で組合づくり勉強会 道教組のつながりから学んで...

一月一日、組合づくり勉強会を行いました。テーマは、「学ぶこと」。私たちは宗谷の中で、「学び愛フェスタ」や各支部での学習会をはじめとした学び合いをつづけています。同時に、道教組に集う各単組でも同じように奮闘をしています。今回は、網走教職員組合から本部のみなさんを招き、学習会を行いました。

私たちは経験から学ぶというやり方で組合運動を伝承してきました。それは人から人へと受け継がれる形で現在につながっています。一方で、様々な情勢の変化によって、私たち自身が考える「組合の姿」というのも変わってきているという現実もあります。そこで、いま組合づくりを担っている

私たちが、組合づくりについて学ぶ機会として「組合づくり勉強会」という集まりを創りました。

夏に行われた道教組の「委員長・書記長会議」をきっかけとして、網走教組執行部のみなさんと宗谷教組の交流が実現する運びとなりました。宗谷教組ではおそろくはじめてとなる「組合

づくり勉強会。学習のひとつをお伝えします。

組合づくりと教育実践

話題提供として三人の先生にお話をさせていただきました。

網走教組委員長・大坪先生からは「組合づくりと教育実践」というテーマでお話をいただきました。

教師生活のスタートが枝幸町、宗谷の教職員組合の組合員として過ごした若いころの経験と、オホーツク管内に他管異動し、網走教組とともに歩んできたこと、網走教組で取り組んでいる教研活動「まなびバ」についてお話をいただきました。「よき教師はよき組合員」という言葉は参加した宗谷教組の先生方の心に響いたようです。宗谷からは枝幸支部が取り組んだ支

教職員は選挙活動 できないんでしょう？

そんなことはありません。できることをまとめます。



選挙になるたび、道教委は「通知」などを出し、あたかも一切の選挙活動が法律上禁止されているかのように言います。「政治的中立」を唱え、まるで政治や選挙の話をするまで禁止されているように聞こえます。でも、「できること」っていろいろあるんです。

選挙の意義、政策について学ぶこと

今度の選挙の意義や、憲法、原発、消費税、教育などに関する各党の政策などを考える組合としての学習会などには、まったく制限がありません

政党や候補者が行う演説会の参加やそれへのお誘い

「教員の地位利用」（公選法）、「学校内での無差別のビラ配布」などにあたる限り制限がありません。

後援会への参加にも制限はありません。教特法や人事院規則では、政党への入党の「勧誘運動」や特定候補への投票の「勧誘運動」を制限しています。

◆「勧誘」運動とは「組織的・計画的、または継続的に勧誘」することを指し、たまたま友人から誘われたり、知人を誘ったり話したりすることを制限しているのではありません。

友人・知人への支持の依頼

たまたま出会った知人に投票を依頼することに制限はありません。「教員の地位利用」や「組織的・計画的、または継続的に「勧誘運動」するのでなければ制限されていません。

インターネットの活用

前回の参議院選挙からインターネットの活用が解禁になりました。ホームページを見ること、つくること、フェイスブックやツイッターなどのSNSでの発信には、一切制限がありません。

電子メールでの投票依頼は公選法で制限されていますが、SNSのメッセージには制約がありません。もちろん、プライバシーの保護など、自分と周りの人に被害が生じないための注意は必要です。

参加された先生方の感想から

網走教組の方の話を聞きながら、組合のよさ、大切さを改めて感じる事ができました。子どもたちをどう成長させていくかを考えて先生方と力を合わせていくことが大切で、そのため

部学習会の取り組みと、青年部が取り組んできた学習会の歴史と今後について話題提供をしました。

宗谷教組では、「身近なところで学べるように」ということを意識しあう支部・専門部活動ということで、枝幸支部が定期的に支部学習会を、青年部関連では今年度は礼文支部青年部と豊富支部青年部が夏に学習会を行いました。こうした取り組みを「見える化」していくことも大切なことです。

宗谷の四季

「こんにちは、新聞のおじさん。わたしはハオの女の子です。

実は、友達がサンタクロースはいないというのです。お父さんは、わからないことがあったら、サン新聞、というので、本当のことを教えてください。サンタクロースはいるのですか？」

有名なお話です。ヴァージニアという女の子が投書した手紙に、1897年9月21日のニューヨーク・サン新聞が「本紙は、以下に掲載される投書に対してただちにお答え申し上げます。このようにまっすぐな方が読者に知られることを、心から嬉しく思います。」と社説欄で答えたというものです。

新聞をみれば、社会情勢をはじめ、社会制度の矛盾など、大人の…それもごくわずかの、この国を動かしている人たちの考えに元気がなくなるような気がします。そんな中でも、心がほっこりするニュースもあるものです。

クリスマスになると、この社説を書いた記者さんの優しさが心に染み入ります。そして、学校も、学級も、こんなユーモアとあたたかさを大切にできたらいいなとも思います。12月、冬休みを前に忙しいシーズンです。体調に気を付けながら、心穏やかに長かった2学期のフィナーレに向かいましょう。



のひとつに組合があるのだなと思えました。よい勉強をさせていただきました。

宗谷の取り組みの正しさに自信をもちました。他地域の方から話を聞くことで自分達を客観的にとらえることができ、交流することで高め合うことができます。宗谷教組の良さが出ていたと思います。遠い枝幸まで集まれて良かったです。

今回の組合づくり勉強会は枝幸町での開催ということもあり、各支部執行部の先生だけでなく、枝幸や浜頓別の先生が参加してくれました。また、道教組に集う他の単組との交流も貴重な機会となりました。